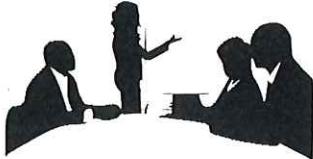


関西で「業種別職種別ユニオン運動」連絡会が発足



昨年12月18日、エルおおさかで「業種別職種別ユニオン運動」連絡会が発足しました。東京では関西生コン型労働運動の普及を目指して、2017年の6月に「業種別職種別ユニオン運動」研究会としてスタートしています。

関西では、生コン業界で中小企業との「一面闘争・一面共闘」路線の下で、セメント独占やゼネコンとの対等取引の実現に協力してきた連帶ユニオン関西生コン支部が存在しています。その関西生コン支部が権力弾圧下にあるなかでの発足となりました。中井弁護士の司会で始まり、準備会を進めてきた私、仲村の開会あいさつの後、木下武男さんから基調講演（下記に要約を次号と2回に分けて掲載）を受けました。

その後、関西生コン支部から坂田副委員長から現下の弾圧状況として、組織犯罪対策課の動きと被害もない滋賀県の事件、マスコミ産経新聞でのち上げ記事、逮捕されて黙秘すると保釈しないこと、労働組合の団結権・団体行動権侵害、継続する弾圧とその反撃の心構えと決意などについての報告がありました。2番手は、関西生コン支部から独立した関西クラフト支部と管理職ユニオン・関西から生まれた関西ユニオンの統合報告が、統合した関西ゼネラル支部の大橋書記長から、3番手は、東京の総合サポートユニオンから業種別職種別ユニオンをめざし、若者向けのブラック企業ユニオン、裁量労働制ユニオン、ベンダーユニオンなどをあってゼネラルユニオンとして活動している報告を受けました。ベンダー（自動販売機）ユニオンの順法闘争、この闘争をツイッターで拡散、東京駅でのストライキ闘争、業界3社に広がった活動報告されました。最後に「業種別職種別労働運動の必要性」と題して、清水弁護士が若者の長時間労働・休日労働、学生のアルバイトなどの状態からユニオンの必要性と知ってもらいたいことを周知することなどを話しました。

参加したなかまユニオンから自販機の山久分会からの報告、ベンダー業界の過不足金をめぐりそれを補填させている悪しきルールがあると声をあげて団交で改善要求をしている報告と支援の訴えがありました。

『業種別職種別ユニオン運動の今日的意義』 木下武男さんの基調講演の抜粋

「業種別職種別ユニオンの今日的意義・課題と役割」というのは二つあります。一つは貧困。日本で広がる貧困を克服するためにユニオンはあるんだということ。二つ目は日本の労働運動全体を再生していくためには、ユニオンの道しかないのだということ。この二つが私たちが研究会で広げていきたいユニオン運動の形です。これは、関西生コンの方式を少し抽象化して、業種別職種別労働運動という名前をつけたものでもあります。これを全国で、そして全ての業種で取り入れたいということを私たちは研究会の考えとしています。

具体的なことに入る前に、ちょうど12月15日に東京でも弾圧反対の集会がありました。私も参加いたしました。国家権力の弾圧反対一色で160人も集まつた。ただしかし、本当の関西生コンの弾圧の原理っていうのが日本の労働運動の団結権・団体交渉権・団体行動権を剥奪するため

にあるのは確かです。そしてこれは、憲法 28 条をないがしろにしながら、戦前の産業報告会のようにしていこうとしていることも確かです。それだけではなくて、関西生コンのやってきた運動そのものが広がっていくこと、それに対する非常に大きな恐れがあるんだということを集会では発言いたしました。

大企業の収奪と闘うことによって、賃上げの原資を獲得できるんだということ、本質的な生コン運動のことを理解していただきたいというふうに東京の集会ではお話しいたしました。

私たちの研究会としては、弾圧に反対という最も有効な反撃というものは、こういった業種職種別の労働運動を広げて行くことだというふうに思って活動しております。

これから「時代の転換とユニオン運動の基盤」という話をします。貧困の広がりです。要するに日本の労働組合というのは民間の大企業の担当部門という所に偏って存在してきました。相対的に言うならば、恵まれたと言いますか、そういうところです。中小零細企業にも多少はありますけれども、ずっと未組織の分野であり続けてきました。しかし、生コン労働者というのはまさしく蔑まれた下層の労働者でした。彼らが労働組合を作つて闘うことによって、しかも正しい労働組合のあり方を追求することによって、その貧困から脱出することができたわけです。

時代の転換を最も象徴的にあらわしているのが、図 1 であります、2000 年を境にしてガラッと変わったと思います。図 1 を見ると、雇用者の数は戦後一貫して伸び続けました。それが現在は停滞している。この停滞したところが 1998 年です。正社員の数も、1998 年を境に下がっています。女性の非正社員比率がずっと増えて今は 6 割を超えています。

今まででは男性の非正社員は学生アルバイトぐらいだったんですが、非正社員が増えている。これは 2000 年に入ったぐらいからです。だから 1998 年から雇用者の数は下落したんですけども、非正社員は 2000 年ぐらいに急増している

図 2 は、一番上が年間の給与ですけれども、この下がったところがちょうど 1998 年。戦後一貫して月間の給与、賃金は上がっていた。これも 1998 年に戦後初めて下がった。雇用、賃金含めて大転換が日本であったことが確認されると思います。

図 1
労働市場の構造変化

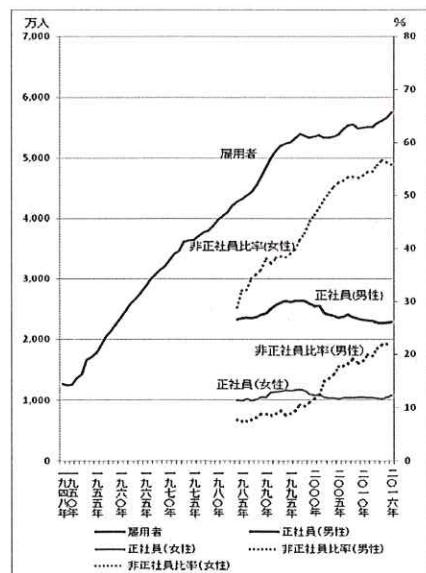


図 2
賃金・所得の下落

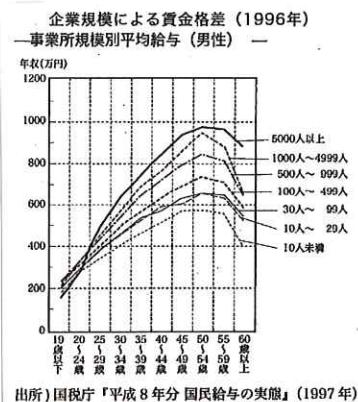


これにともなって、労働運動の舞台が、労働運動の担い手が年功的労働者（年功賃金）から下層労働市場の非年功型労働者に変わってしまったことが非常に重要です。

図3を見れば、日本の労働運動が何で衰退したかが明らかです。図は男性です。女性はこんな風にはなりません。正社員の賃金は企業規模ごとに整然と分かれています。一番下が中小零細企業。これが格差社会ですね。この一番上に乗りたい、そのためにはいい大学に入って、いい会社に入らなくちゃいけない。それが日本の学歴競争社会だったんです。その会社に居続けなきゃいけない。その会社から外れたら、もう上がらない。もう一つ、査定昇給は絶対会社に立てつかないことが条件です。会社に楯突いたものは労働運動の活動家として年間何百万円もの賃金差別を受けてしまう。

それが変わってしまった。図3の初任給のところ、年収200万で、これが35歳までは上がるけれども、後は上がらなくなつたということです。若者が多く働いている産業では非年功型の正規職といえると思います。それから非正規職。初任給と最低賃金は実は密接に結びついています。年功賃金の初任給を押さえながら、最低賃金が作られる。だから時給1000円にもなつてない。非年功型労働者の貧困、この階層は若者、女性、高齢者。高齢者の貧困、それと低所得の共働きの家族。こういう貧困が集中しているところを時代の転換ってのは意味しているのだと思います（図4）。従いまして労働運動の新たな担い手は、年功的労働者から非年功的労働者に移ったということです。

図3 労働運動の舞台の転換＝時代認識の共有



関西で「業種別職種別ユニオン運動」連絡会が発足（下）

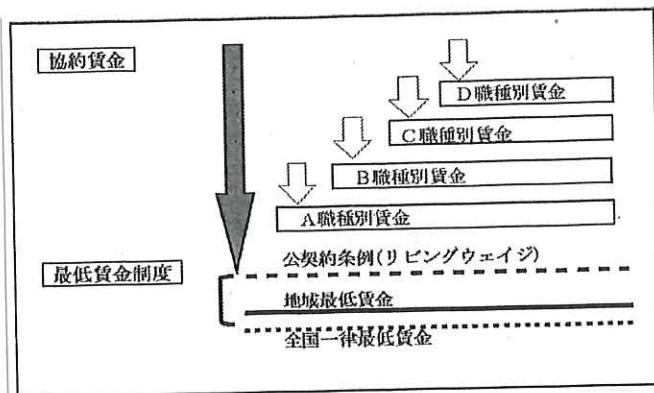
『業種別職種別ユニオン運動の今日的意義』

木下武男さんの基調講演の後半です

我々の壮大な構想

図を見てください。今どんどん賃金が下がっています。一番下が我々が目指す全国一律最低賃金制度です。これが制度の歯止めとして作りたいんですけども、その上に職種別賃金があります。これが関西生コンの職種別賃金、バラセメント、圧送、これから作るところの介護職、保育職…今までの年功賃金に変わる職種別の賃金を全職種で作ろうということです。それが逆に業種別ユニオンを全国・全業種で作っていく。だからこの職種別賃金というところに業界団体があって、業界団体と集団交渉をするユニオンがある。これ全体をまとめましてジェネラルユニオンというのを作っていく、すごい将来の展望なんです。

ジェネラルというのは誰でも構わないという労働組合でなく、業種別部会という間仕切りをつくる。だから大きな構想としては、職種別賃金を築いていく業種別ユニオンが、未来のジェネラルユニオンの業種別部会になるんです。今あるようなバラセメント、圧送、生コンだけではなく色々な業種別ユニオンが一大結集して日本で巨大な労働組合をつくる。ワンビックユニオンというものです。イギリスでもアメリカでもそれを標語にしました。下層の労働者が這い上がる武器として、一つの労働組合に結集しようということが必要なんだろうというふうに思います。



ベンダーと言いまして自販機の労働者が立ち上りました。当時の日経連（現経団連）の会長が関生の運動を「箱根の山を越えさせない」ということを豪語したんです。残念ながら越えられないんですが、関西生コンの精神とその闘い方は箱根の山を越えて、東京のど真ん中の東京駅でストライキを打った。そのような形で関西生コンの精神と闘い方っていうのは若者の所にも広がっている。貧困の人達というのは立ち上がるのが難しい、しかし、逆に立ち上がりやすいという面もあるんです。その点に目を向けるかどうかというのが、これからユニオン運動でとても重要なところだと思います。

それが年功的労働者から非年功的労働者に移ったんだということと、下層労働市場の特徴として、ユニオンへの結集の必然性があると思います。東京の東部労組っていうのがあるんですけども、そこに当時、「あなたは悪くない」って一言書いてある大きなポスターがあったんですね。それくらい、自分が悪かったんだっていう自己責任というか、屈服感と無力感に支配されていた。だからガテン系連帯も結局なかなかうまくいかなかつた。その当時か

ら 10 年も経たないうちにユニオンへの結集というのは全く違っているというふうに実感しました。それは何からかって言うと、下層労働市場では低賃金・過酷労働・使い捨て労働が普通



です。やめたければやめてもらつていいっていう正社員。代わりはいくらでもいると言われる。それが労働市場の構造の変化なんです。代わりはいくらでもいるんだから使い潰す・使い捨てる。2000 年代半ばに労働相談で会社を辞めさせてもらえないという労働相談が来たというので当時びっくりしました。辞めてもらって結構っていうことと、だから使い潰すまで辞めさせない、潰れたら使い捨てる。まさに冷酷の精神というものを、日本の経営者が労働市場の構造変化と共に身につけたんですね。それが 2002 年の大リストラの時もそうです。希望退職させて、リストラでどんどん首を切るというのが、大企業でも起きました。若者の職場でやめてもらって結構、そういう状況でどうなりますかって言うと、企業に続けても労働条件は変わらない。だから転職したい。だから辞めたい辞めたいっていう労働者がたくさんいる。しかし転職しても、どこに行っても同じという感情が広まっている。これはとても新しいことです。派遣労働をやった人が他の小売店で働いてもベンチャーで働いても同じような働く方をする。そうすると、ユニオンで闘う以外ないんだという風になる。だからユニオンに対する接近の仕方、度合いっていうのが非常に短縮されている。そういう意味では、可能性というのは非常に高まっているということです。

だからこそ労働者の組織化をすること、それが業種別職種別ユニオンとイコールだと。労働者の組織化というのは、戦後の労働運動の中では、総評が一時期行ったことがあります。日本では企業別労働組合が主体になっていますが、企業別労働組合は企業内の従業員を組織するわけです。そして企業内の利益を重んじるわけですから、企業の外の所に金を使ってほしくないというのが本音なんです。

業種別職種別ユニオンというのはまさしく労働組合の組織化戦略と一体なんだと。業種の線、職種の線でオルグをすると一網打尽に結集出来るんです。企業別労働組合は全国にある会社を点で組織するけれども、私たちの業種別職種別ユニオンでいうと、一網打尽に業種職種ごとの線で組織化するという点では非常に合理的でもあると思います。それから、業種別職種別ユニオンの広がりについて、武委員長がおっしゃられたように、生コン業界で広がっている。それから生コン関連業界でも広がっている。バラセメント、それから圧送。圧送というのは知っている方はご存知だと思うんですけども、私は運輸か建設かなと思っていたんですけども、建設産業なんですね。建設産業の専門工事業です。事業協同組合があります。これはどういうことかと言いますと、とびとか左官だとか内装大工とか、いわゆる建設産業、町の家を建てる大工さんとかであれ、大きな建設現場であれ、あらゆる業種における専門工事業の組織化の雛形として圧送というのがあるんだということです。

先ほどワンビッグユニオンというでかい話をしました。それは遠い将来の話でありまして、私はその第一歩として、あらゆる業界職種に火をつける段階だと思います。生コン業界とか圧送、バラ、港湾とかきちんとした業種別のユニオンも存在しています。若者に目を向けますと、そう簡単にユニオン運動に定着しにくいんですが、火をつけてそれはやがて芽が

出るという段階だというふうに思います。いろんなところでいろんな実験をして、その中でユニオンの体験を持った若者たちを育てていくということが大事かなと思います。

業種別職種別ユニオンで取り組んだ事例に、個人指導塾ユニオンというのがあるんです。これは学生が講師なんです。この個人指導塾ユニオンにずっと所属する組合員っていうのはいないです。けれども、きちっとした指導をすることによって、活動家風にすぐなっちゃうんです。そして学生を辞めた時にまた新しいユニオンで闘うような人たちになって行く。火をつけるっていうのは一度ユニオンの体験をさせるということです。日本では企業別労働組合じゃない労働組合で闘った人たちはそんなにいないんです。ユニオンの魂を持って育っていく若者たちというのがいるんです。

最後に東京の研究会で学習会をやった事例です。クリーニング産業で業種別ユニオンができているということがあります。指宿弁護士という弁護士が、そこに関わっていたんですね。彼はクリーニング業界で新しくユニオンを作ったんです。クリーニング産業は、今はクリーニングの工場を持っていて、そこで大々的にクリーニングをして、スーパーだとそういうところを窓口にしておろしている。そして過酷な労働でクリーニングをやっている。その産業に異を唱える人がおりまして、N P Oを作ったんです。それがとても素晴らしい方で、業界を健全化したいといった熱意を持った業者の方でした。

東京では、業種別職種別ユニオンといってきたところと、新しい若者たちに目を向けて切磋琢磨しながらやっています。関西には関西生コンという素晴らしい雛形があるんですが、東京にはないんです。一生懸命、関西生コンの運動のことを翻訳しながら運動をしています。東京で関西生コンに自動車パレードをやってもらいたいぐらいです。みんな関西生コンがどういうものかわかるので。東京で若者を組織するということはみんなに発信していくなくちゃいけないと思います。貧困と若者に目を向けながら、関西生コン方式を広げていきたいと思います。

(抜粋の文責は仲村です)



神戸組合員 学習・交流会 に集まれ！

学習テーマ 「関西生コン支部弾圧」

について

仲村書記長より

日時 4月20日（土）午後2時より

場所 神戸市勤労会館 2階和室

終了後、懇親会を予定しています。

